

木更津市

100周年に向けた 魅力あるまちづくり

木更津市は、東京湾アクアラインの沿岸地に位置し、東京をはじめとする主要都市と1時間圏内で結ばれ、高いアクセス性を有している一方で、東京湾最大の自然干潟「盤州干潟」や美しい自然景観が広がる上総丘陵など、豊かな自然環境に恵まれたまちです。

近年は、「都心に一番近い田舎」という本市の強みを生かした施策の効果もあり、二拠点移住やテレワーク移住などが進むとともに、「新しい生活様式」への取組とも相まって、定住人口の増加だけではなく交流人口の増加も見込まれています。また更に、民間事業者による取組として、公共施設の再利用も進められているところです。

昨年7月には、中学校跡地を活用した宿泊型総合スポーツ施設「木更津スポーツヴィレッジ」がオープンしました。この施設は、市内外の団体が合宿を行うための宿泊施設やバーベキュー場の整備を行うとともに、市民からの要望が多かった体育館の時間帯も可能とするなど、スポーツを通じ

た交流拠点として活用されています。

また、昨年12月には、緑豊かな環境にあった小学校跡地が、グランピング施設「エトワ木更津」として生まれ変わりました。この施設は観光拠点として活用されるとともに、地元企業によるカフェの出店や地元産食品の販売など、地元雇用や地産地消の促進にも寄与しており、地域活性化に資する施設となっています。

いずれの施設も高速道路からのアクセスに優れ、本市を訪れる動機づけになるとともに、周辺地域の大型商業施設やレジャー施設などへの回遊性向上にも一役かかっており、本市の魅力向上や交流人口の増加にもつながることが期待されています。

今後も市制施行100周年に向けた魅力あるまちづくりの交流の輪を広げ、人と自然が調和した持続可能なまちづくりを進めてまいります。



茂原市

持続可能な まちづくりを目指して

千葉県ほぼ中央に位置する茂原市は、昭和27年の市制施行後、豊富な埋蔵量を誇る天然ガスを利用する企業の相次ぐ進出により、急速な工業化が進み、長生・山武・夷隅地域の核的な都市として発展し、今日に至っています。

首都圏中央連絡自動車道（圏央道）のインターチェンジも複数あり、これを利用することで、首都圏各地域や成田・羽田両空港まで1時間圏内と交通の利便性に優れています。

現在、エネルギー価格の高騰により、安価な天然ガスがあることで注目されるようになった本市では、やはり「七夕まつり」が欠かせません。関東屈指と言われるこの「茂原七夕まつり」は、毎年7月下旬に市内商店街を中心に開催されます。今年は4年ぶりの開催となりましたが、例年と変わらず、まちは、色とりどりの鮮やかな七夕飾りで埋め尽くされ、さらに、もばら阿波おどり、YOSAKOI

「夏の間をはじめ、市民参加による様々なイベントが実施され、多くの人出で賑わい大盛況となりました。また、ロケツーリズムを活用したシタイプロモーションに力を入れており、ロケ誘致や撮影支援を官民一体で行う「千葉もばらロケーションサービス」を設立し、これまで220件を超える映画やドラマの撮影支援をしてきました。献身的な活動と多くの実績により、ロケ地としての知名度が急上昇し、現在では「ロケで話題のまち」として注目を集めています。



本市では、2030年を目指すべく将来都市像を「未来へつながる『交流拠点都市』もばら」とし、この実現に向けた様々な施策を推進しています。全国的に人口減少は一段と深刻化していますが、長い歴史のある「茂原七夕まつり」に加え、新たな観光資源である「ロケ地」を最大限活用し、更なる交流人口、関係人口の拡大に努め、茂原の強みを生かした持続可能なまちづくりを進めていきます。

成田市

生涯を完結できる 空の港まちを目指して

成田市は「住んでよし働いてよし訪れてよしの生涯を完結できる空の港まちなりた」を将来都市像に掲げ、未来を見据えた施策に積極的に取り組んでいます。

まず、衛生管理の整った加工施設や農水産物の効率的な輸出を可能とする日本初の「ワンストップ輸出拠点機能」を備えた新生成田市場が、昨年1月、成田空港隣接地に開場しました。成田空港や東関東、圏央道などの充実した広域交通ネットワークを最大限に活用した卸売市場の輸出拠点化という取組は、国内外から注目されており、全国的に市場の取扱高が減少傾向にある中にあっても、取扱高、輸出金額ともに増加傾向にあります。今後も輸出拡大を通じて、日本の農水産業の発展に貢献していきます。



■新生成田市場
また、国家

戦略特区の規制緩和により新設された国際医療福祉大学医学部の附属病院は、開院から3年が経過し、感染症対策に尽力しながら、一日千人以上の患者を受け入れるなど、本市の医療体制において欠かせない存在となっています。本年3月には、医学部から初の卒業生が輩出されており、地域医療への更なる貢献が期待されるそうです。



そして、滑走路増設を柱とした成田空港の更なる機能強化も着実に進行していることから、人口増加と産業集積を見据えた新たなまちづくりに取り組んでいます。

令和6年3月31日には、市制施行70周年という大きな節目を迎えます。今後も、「成田らしさ」を発揮した魅力ある施策を展開し、多くの人が行き交う活気あふれるまちづくりに取り組んでいきます。

市原市

「これまでのいちほら」と 「これからのいちほら」をつなぐ

市原市は、房総半島の中央に位置し、北部の東京湾沿いには国内最大級の石油化学コンビナート群が立地しています。内陸部には大規模な住宅団地が点在し、中部から南部には里山や田園風景が広がる、多様性に富んだ県内最大の市域を有するまちです。

国内有数の工業地帯を擁する本市は、県内初の「SDGs 未来都市」として、2050年カーボンニュートラルの実現と地域経済の持続的発展の両立に、企業・市民・行政が体となり挑戦しています。

歴史をつなぐ、人をつなぐ

令和4年11月には、市内で見発された旧石器時代から近現代にわたる貴重な文化財を間近で見ることができ市原歴史博物館を開館しました。隣接する歴史体験館では発掘作業の疑似体験や勾玉づくりなどが



体験できるほか、市全域をミュージアムと位置付け、市内の歴史遺産を巡ることができ取り組みを市民との協働で進めています。

また、国内最多の33か所のゴルフ場数を誇るゴルフのまちでもあり、ジュニアゴルファーを対象とした大会の運営など、ゴルフの聖地を目指して取り組んでいます。

魅力を次世代につなぐ

本市は、令和5年5月1日、市制施行60周年を迎えました。9月末には「第10回上総いちほら国府祭り」、10月からは、内房総5市で開催する「百年後芸術祭内房総アートフェス」、1月には、100人以上の有識者が集う学びのイベント「エンジン01 in 市原」などの記念事業を開催し、本市の魅力をより多くの方に届け、次世代へつないでいきます。

